

青森農研フラッシュ

研究成果

(地独) 青森県産業技術センター・農林部門

防除計画の参考になる「青天の霹靂」のいもち病リスク評価

－「青天の霹靂」はいもち病に強いので、減農薬でも大丈夫です－

農林総合研究所

イネいもち病はイネの葉や穂を枯らしてしまう恐ろしい病気です。通常は複数回の薬剤防除が必要ですが、「青天の霹靂」はいもち病に強い品種ですので、農薬を減らした栽培が可能です。

それでは、どの程度まで農薬を減らせるのでしょうか？また、減らした時のリスクはどうなるのでしょうか？ 農薬を削減したいろいろな防除体系について、穂いもち被害リスクの評価をしました。

「青天の霹靂」の防除体系別リスク評価

- ◆ 3ヶ年28事例について調査し、各防除体系の穂いもち被害リスク一覧表を作成しました。
- ◆ 穂いもち被害によるリスクを、減収する「高い」から、減収しない「低い」まで4段階に分けました。
- ◆ 以下の6種の防除体系は、標肥栽培では穂いもち被害リスクは「やや低い～低い」の範囲内でした。農薬を節減した防除体系が十分に可能です。
- ◆ ただし、多肥栽培では被害リスクが高まり、減収のおそれがあります。これまでの指導どおりに適正な肥培管理を徹底しましょう。

いもち病防除体系	事例数	施肥・環境別の穂いもち被害リスク		
		標肥		多肥
		一般的环境 ²⁾	好適環境 ²⁾	好適環境 ²⁾
箱施用 (50g/箱) + 穂2回 (出穂直前 + 穂揃期)	4	低い(1)	低い(2)	低い(1)
箱施用 (50g/箱) のみ	2	—	低い(1)	やや低い(1)
箱施用 (30g/箱) のみ	2	—	やや低い(1)	やや高い(1)
葉0回 + 穂2回 (出穂直前 + 穂揃期)	4	低い(2)	低い(2)	—
葉0回 + 穂1回 (出穂直前、出穂期、穂揃期のいずれか)	10	低い(4)	低い(4) やや低い(1)	高い(1)
無防除	6	低い(2)	低い(2) やや低い(1)	高い(1)



葉いもち 穂いもち

標肥栽培なら、いずれの防除体系でも穂いもち被害リスクは「低い～やや低い」の範囲内でした。安心して減農薬栽培ができます。

(注) 1 () 内の値は事例数。空白は事例なし。
2 「好適環境」いもち病の発生に好適な環境。「一般環境」好適ではない一般の環境。

技術の活用・注意点

- ◆ リスクを考慮した防除体系の選択が可能になりました。防除計画を立てる際にご活用ください。
- ◆ 防除計画を立てる際には、環境条件（いもち病が発生しやすい環境かどうか）や、薬剤費などのコスト、経営方針等も考慮しましょう。
- ◆ その他の栽培管理等は『「青天の霹靂」良食味・高品質米栽培マニュアル』に従いましょう。

お問い合わせ

農林総合研究所 病虫部 (Tel 0172-52-4314)